

中酪情報 No.599

2022年5月31日発行
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議
編集・発行人：寺田 繁
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
<http://www.dairy.co.jp/>
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

編 集 後 記

2022年2月24日、ロシアのウクライナ侵攻が開始されました。侵攻前と侵攻後のウクライナの写真や動画がSNS上でシェアされており、それらを比較すると、進攻による被害の大きさが痛いほど伝わってきます。一刻も早い平和的解決を祈りたいと思います。

ウクライナの中部と南部に広がる肥沃な黒土地帯は、ロシア帝政時代から「欧州の穀倉」と呼ばれており、農業は主要産業の一つです。現在では、欧州のみならずアフリカやアジアにも穀物を輸出する「世界の食糧庫」となりつつあります。

ロシアがウクライナへ侵攻を開始したことを受けて、米国のシカゴ商品取引所では小麦、大豆、トウモロコシの先物取引価格が急上昇しました。とくに、ロシアとウクライナで世界の貿易量の約30%を占める小麦は、3月8日の先物相場が2008年の食料危機の最高値を上回りました。

また、ウクライナのトウモロコシ輸出量は世界貿易の約15%であり、飼料用トウモロコシの90%近くを海外からの輸入に頼っている日本にとっても、国際需給の変化が飼料価格に直結する問題となっています。世界有数の穀倉地帯からの輸出が国際需給に影響を与え、国内市場にも大きな影響が及んでいます。